

平成29年度第2回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成29年11月6日(月)午後1時30分～3時00分
- 2 場 所 木更津市郷土博物館金のすず 多目的室
- 3 出席委員 委員長 中村哲
委員 高橋めぐみ・圓谷加陽子・廣部昌弘・山田俊輔
(荻野敬次委員欠席)
- 4 出席職員 高澤茂夫教育長、山口玲子教育部参事兼文化課長、
石井館長、稲葉副館長、松本副主幹、井上副主幹、
丸山主任主事、多田主任主事
- 5 傍聴人数 0名
- 6 委嘱状交付 山田俊輔委員
- 7 議 事
 - (1) 議題1 木更津市郷土博物館金のすず協議会
副委員長選出について(公開)
 - (2) 議題2 木更津市郷土博物館金のすず常設展示について(公開)
 - (3) その他 木更津市郷土博物館金のすずの設置及び管理に関する条例
施行規則の一部を改正する規則の制定について(公開)

8 議事内容

事務局(松本): ただいまより、平成29年度第2回「木更津市郷土博物館金のすず協議会」を開催いたします。

今回、10月31日付での藤浪委員の退任に伴い、新たに千葉大学文学部の山田俊輔様に委員を御願ひすることになりました。これより委嘱状の交付を行いません。

—教育長から委嘱状交付、介添石井館長—

教育長: 委嘱状。山田俊輔様。木更津市郷土博物館金のすず協議会委員に委嘱します。期間は平成29年11月1日から平成30年10月31日までとします。平成29年11月1日 木更津市教育委員会。

事務局(松本): 山田委員より自己紹介をお願い致します。

山田委員: 千葉大学に来る前は東京国立博物館に、その前には早稲田大学内の博物館で勤務経験があります。そのなかで「金のすず」は、いい活動をされている博物館なのでよく存じ上げております。今までの経験を少しでも活かせる形で仕事が出来たらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局(松本): 本日は、荻野委員がご欠席でございますが、6名中5名のご出席をいただいておりますので、「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第8条」により会議は成立しております。

また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第3条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが、傍聴人は0人です。

それでは会議開催にあたり、木更津市郷土博物館金のすず協議会の中村委員長に、ご挨拶をお願いいたします。

中村委員長：金のすずも丁度10年目に入りました。金鈴塚の出土品の文化庁の審議の目安もついてきたでしょうか。早く再評価してもらえるように頑張っていたきたい。事業の面でも非常に多彩で、これ以上出来ないくらい実施しているようで、大きな実績を残しているかと思えます。

この10月の半ばに、千葉市の加曾利貝塚が国の特別史跡に指定されました。これは、長野県尖石遺跡、青森県三内丸山遺跡、秋田県大湯環状列石に次いで、縄文の史跡としては全国で4番目の指定となります。加曾利貝塚博物館にも、何かと今後の協力をお願いできるのではないのでしょうか。

それから、現在国では現制度のあり方の改革を進めております。県では、博物館資料の救済ネットワークの検討を継続しております。金のすずもそれらに合わせ、ソフト面をもう一度洗い直して、効率化を計ってみてはいかがでしょうか。

博物館が地域の要望に応えられるように、地域の核としての更なる充実を図れるよう、館長を中心に職員一丸となって更に頑張っていたいただければと思います。

事務局（松本）：続きまして、高澤教育長よりご挨拶申し上げます。

高澤教育長：本日は本年度第2回目の協議会にご出席いただき、誠に有難うございます。また、委員の皆様には日頃から、学校教育や社会教育、とりわけ文化行政に、ご理解とご支援、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

先程、委嘱状交付をさせていただきました山田委員には、前任者の残任期間であります、平成30年10月31日までの1年間ではありますが、よろしく願いいたします。また、中村委員長をはじめ委員の皆様には引き続き、博物館の運営等につきまして忌憚りの無いご意見、ご指導を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

おかげさまで本館も県から移譲を受けまして、この10月で10年目を迎えることが出来ました。この間出来るだけ地域の魅力や、文化財の素晴らしさを市内外の多くの皆様に知っていただきたく、毎年、常設展は勿論のこと企画展や特別展を開催してまいりました。また、委員長からありましたように、現在丁度、国立歴史民俗博物館と、金鈴塚古墳出土品の共同研究を実施しております。今年度からできれば国宝を目指したいということで本館は勿論、教育委員会も力をあげて取り組んでいる最中でありまして、ハードルは高いと伺っておりますけれども、出来るだけ再評価に向けて動きの加速をさせていただければと考えています。それから今年は市制施行75周年の冠をつけた木更津市主催の大きな行事を幾つも実施しておりますが、館の方でも特別展「木更津の中世～真里谷武田氏とその時代～」を75周年記念事業の一つとして、12月24日まで開催をさせていた

だいております。先ほど館長に伺いましたら、この3連休も天気が良かったので随分この山に訪れた方もお出でになり、入館者も増えたというお話も伺いました。

今日はこの後、ご覧を頂き忌憚の無いご指導をいただければ有難いと考えております。またこの特別展と関連して12月2日には特別講演会も予定しています。またご案内があるかと思えますけれども是非お時間を見つけて頂いて足を運んでいただければ大変有難いと考えております。

今日はお手元にありますように議題については2点出ております。とりわけ2点目は木更津市郷土博物館金のすずの常設展示についてということで、ご意見をいただくことになっています。丁度、館の方も開館10年目を迎えて常設展示のリニューアルというものを検討するという形の中で、協議会委員の皆様にも今後の展示の方向性などについて忌憚のないご意見を頂戴できればと考えています。是非よろしくお願いをしたいと思います。それでは大変お忙しい中をご参加いただきました委員の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈りして冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（松本）：続きまして職員を紹介させていただきます。

—職員紹介—

事務局（松本）：それでは、総会次第により議事に入らせていただきますが、ここで、高澤教育長は公務多忙のため、退席させていただきます

—教育長退席—

事務局（松本）：また、一部事務局職員も公務のため、退席させていただきます。

それでは、運営規則第8条の2により、中村委員長に議長をお願いいたします。

委員長：それでは議事に入ります。議題1の「木更津市郷土博物館金のすず協議会副委員長選出について」の説明を、事務局に求めます。

事務局（稲葉）：議題1「木更津市郷土博物館金のすず協議会副委員長の選出について」は10月31日付けを持って副委員長の藤浪委員がご退任されたことに伴い、新たに副委員長を選出するものでございます。木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第二条の規定により選出を求めます。

委員長：それではいかがいたしましょうか。推薦していただけますか。

圓谷委員：議長に一任でいかがでしょうか。

委員長：議長一任との声がありましたが、いかがいたしましょうか？

それでは議長一任とさせていただきます。

開館からずっと委員をされております荻野委員で如何でしょうか。

（異議なし）

委員長：それでは、本日欠席されておりますが、荻野委員をお願いいたします。後日事務局から荻野委員に了解と報告をお願いいたします。

委員長：次に議題2「木更津市郷土博物館金のすず常設展示について」、事務局に説明をお願いいたします。

事務局（稲葉）：議題2の提案理由といたしまして、博物館が開館10年を迎え、今後常設展のリニューアルを検討する計画であります。特に平成31年、32年が博物館空調工事の関係で全館休館になる計画がございます。その期間を利用してリニューアルに動き出して、33年度には実際に計画の反映した展示をと考えております。それに伴いまして委員の皆様事前に意見を求めるものでございます。

まず資料をご覧ください。平成20年度開館時の木更津市郷土博物館金のすず基本構想、条例等資料がございます。

まず条例等資料に「木更津市郷土博物館金のすずの設置及び管理に関する条例」があります。第1条に設置の目的が明記され、「木更津市郷土博物館金のすずの設置及び管理に関する条例施行規則」第4条では、「次に掲げる博物館資料を展示することとする（以下略）」とあり、条例及び規則に規定されております。

この中で開館時の基本構想の中の展示方針として、「金鈴塚古墳出土品を中心として、県から移譲された資料および市所蔵の歴史・民俗資料及び書画を展示する。年間複数回の企画展を実施する。」となっております。

別添展示計画書では各展示室にどのようなものを展示しているかをご確認ください。条例及び規則に則って書画、歴史、金鈴塚等があり、展示の流れは通史展示で、一番古い時代から一番新しい時代へという方法を採用しております。

次に、アンケート集計表をご覧ください。観覧者から任意で記入いただいたアンケートを集計しております。28・29年は、未集計のため今回提出を見合わせております。集計結果は、総じて全体的に良かったという人が多く見られます。ただその中で体験できるものをもう少し入れてほしいという意見が多くあります。27年度は、初めて現代を扱った特別展「昭和20年の木更津」を開催した関係からか、現代を扱ってほしいという要望が多く見られました。

—スライド上映等利用して説明—

次に館内の常設展示風景画像をみていただきます。第1展示室に「書画の魅力」、第2展示室に「金鈴塚の輝き」、第3展示室から「きさらづの歴史」、などとなっております。

常設展示では第2展示室で金鈴塚に特化した展示を、第4展示室に金鈴塚以外の古墳関係を配置し、遺物や写真パネルを置いて展示をしております。

文字が多いと見てもらえないと考え、全体に解説文が少ない展示になっております。そのため物だけが並んだ展示になってしまっている傾向があるともいえます。

次に、埴輪の展示ですが、A博物館の埴輪の展示で工夫しているなど感じたものを見ていただきたいと思います。触れる展示、ハンズオンですね、体験できる展示物として、レプリカの破片に磁石が付いていて、犬の埴輪の作り方を学ぶことができる。ただ見るだけでなく、触れる展示も導入できないかと。

また、当館のキャプションはかなり小さいのですが、A博のキャプションは結構大きくて、遺跡名と時代、元々の所蔵者まで書いています。

次に、B県博が全国的に好評だそうです。まず一番初めに大きなモニターがあり、博物館の内容紹介があります。博物館とは？、博物館の使命、博物館の歩み、など「この博物館はこういう博物館なんだ」という主張をしております。

当館には未設置ですが施設全体のどこの部屋に何があるという表示などもされています。展示内容や館の行事なども見られるようになっております。これは当館に足りない部分ですが、作成、更新作業に専任職員が必要となりそうです。

展示室に入ると館全体の展示構成が表示され、最初にB県に関するあらゆるものがパネルにして一箇所にまとめてあります。説明はありませんが、その対象とする地域を象徴するものが最初に全て見せております。

押し花の展示など、身近なものも展示対象としていて、好感が持てました。これは当館においても太田山公園を巻き込んで利用できる可能性があります。

B県博では調査活動そのものも展示しておりました。調査の工程を見せることで、博物館の活動までPRできるようになっております。

展示で説明仕切れないところはデジタルで補われています。更に深く知りたい人はデジタル資料を見ていくという構成です。多岐にわたっているのも、観覧者の誰か一人が機器を占領していると他の人は使えないという欠点もあります。全部見ると半日あっても見きれないくらいの量です。

ほかにB県博で興味深かった展示は、くらしの写真です。高度成長期とその前の写真が収集されていて、閲覧出来ます。説明文が全くない写真も多い状況でしたが、この展示は市民参加型の展示が出来ているのではないかと感じました。

C県博では、特定のマークがあるところでスマホを使うと色々な説明を受けることができる。展示と文字解説だけでは説明しきれないものもスマホ、電子機器が対応してくれるというものです。また2ヶ国語、3ヶ国語で対応するものもあるそうです。今後東京オリンピックに向けて外国人の増加を見据え、全国の博物館では最低3ヶ国語が必要ではという声もあります。当館としても、多言語化の方向を目指したいが、どの程度委託に出す必要があるのかなど予算的な問題などがあります。

しかし、博物館の展示内容の理解をさらに深めて貰うために、見学者自身が操作することで知識を得られるというところに、普通だったら素通りされてしまう場所でもワンクッションおける機能として有用であろうと考えております。

もうひとつ、C県博の期間限定クローズアップ展示があります。次の展示の予告もあります。展示を変えていくのは職員が多くなると大変だと思うのですが、常設展が固定している博物館よりは、毎回少しでも行くたびに変化のある博物館の方が面白いのではないかと思います。

ここにも写真展示があります。面白いのは1960年、左側に1950年とあって写真がたくさん並んでいます。やはり高度成長前後の時期は、一般のお客さんに人気なようです。現在、調査する余裕がないところが当館の弱いところと考え

ております。最後にこの博物館で興味を引いたのは、C県の「ここに行ってきました」という展示があることです。博物館から外へ出て行く情報を来館者が提供しているようです。

事務局（多田）：この展示は学芸員が、来館者から「●●へ行きたい」というコメントが多いと、●●の写真が張り、「これからどこに旅しますか」というアンケートに投票してもらった集計を展示していました。

事務局（稲葉）：博物館の内と外との関係性を作るという展示の一例でした。

D市の博物館では、入ってすぐにD市の航空写真が大きくあります。これから見る展示物が、どの場所にあったかという情報が示されています。これはシールで表示しているので何回も使える形になっております。

ここの展示で注目したのは、展示物の後に実際の場所の現状の写真が載っていることです。現地を見たい人には便利かと考えます。当館の展示は基本的に物だけです。木更津市の展示品の多くが、宅地開発の終わった場所なので、全く旧地形が残っていない。ただし、現状がまったく変わっていても風景写真があると、昔と今の違いがわかり、現在と昔を繋げる工夫のひとつではないかと感じました。

民具が、土に刺して展示しています。物だけの展示よりは、ほんの少しの工夫で血が通う展示が出来る例ではないかと思えます。

E県博の貸衣装です。古代人の服などが着られるという体験セットです。

東北のF博物館では館外の公園を含めた全体の看板があります。当館の場合も、公園の中に戦争遺跡や古墳がありますので、館外と有機的に関係付けられる解説板があってもいいのではないかと考えます。

F県博では子ども達を対象としているのか、イラストや写真が多い特徴があります。観るだけではなく、触れる資料も置いてあります。ただ、触れる物イコール壊れてもいいものという発想を持っている人がたまにいますので、どこまでがハンズオンに適した資料なのかというところの線引きが難しいと思えます。

これはG貝塚遺跡庭園です。紫外線対策だと思えますが、公園の中の看板、説明板が焼き物でできています。当館のある太田山公園内でも、こういう野外展示ができないかなと考えております。以上、他館で興味を持ったところを、概略説明させていただきました。

次は、平成25年に博物館職員有志にアンケートをとった資料です。当時の職員がどのように考えていたかということがわかります。まず基本理念としてはどれも具体性のないものばかりで恐縮ですが①「木更津市」がわかる展示を目指す。とにかく木更津市がアピールしたいもの、大切なものは何なのかを掴んで、通り一遍等の古い時代から新しい時代までの展示ではなく、通史は通史で大事だがピンポイントで大事なところは厚く展示するという考えです。②誰にでも優しい博物館を目指す。③何度でも行きたいと思ってもらえる変化する博物館、④記憶に残る博物館、⑤市民参加型の博物館、という考えが職員から出ています。

基本方針としては①総合的な博物館としてあらゆるものを展示する。②体験できるハンズオン、資料に触れることが出来る展示、③展示が固定化しないように変化を恐れず、常に情報を発信することを目指す。④博物館の使命、館の活動内容を含めて展示することで市民の理解・協力を引き出すことを目指す。

その他として、①木更津市の地域性をアピール、②障がい者などが安全に来館、見学できる環境づくり、③最新調査研究成果の活用、④通史展示とテーマ展示の併設、⑤あなたの作る博物館、一部屋を開放してプロデュースをお願いする。等々です。観念的なので具体策は示しておりません。

以上、アンケート結果などを踏まえて委員の先生方に博物館の展示の方向性等ご意見をいただきたい。平成33年にリニューアルという目標を持っているので、委員のご意見をそのまま100%取り入れられるということではありませんが、これから考えていく上で指針となるようなご意見をいただきたい。

委員長：私の経験から、展示の各論と全体の方向性は分けたほうが良い。見てきた展示技術を取り入れたいは良いが、全体の予算との兼ね合いもある。

全体の話は、既にある程度常設展や、特別展での実績を分析した結果があるはずなので、検討して方向性を出してはいかがか。博物館学のように一から十まで全部は出来ない。そのためには今までの実績で良かった点と問題点を抽出すべき。

全体ではOK、体験はもっと多く、というアンケート結果もあった。

今日の博物館は、一方的に観る人、与える人じゃなく、自分が参加する場所になって来ている。体験とは、ただ体験セットで遊んで下さいではないと思う。企画から参加して、自身も運営の一角を担ってもらうシステムを作らないと事業が長続きしないだろう。来館者の考え方は進んでいると思う。

そのためには一般の人だけではなく、学校や、地域との提携とそのシステム化、体系化を図る必要を考えないと、多分1、2年以上は持続しない。だから今の時代の「体験」は、ただ見るだけの参加ではなく、企画から入っていくような参加型を多分望んでいるのだろうと思う。

それから現代資料をもっと取り入れてほしいとあったが、やはり身近なテーマがほしい、歴史も大事だけれど歴史の上に現代があるわけだから、そこのところを繋げる何かをやってほしい。だから例えば展示室で芸術関係の作品を見ると房総の風景は木更津の風景を描いた作品に限定する仕方だとまずいと思う。房総ゆかりの作家でも各地を描いたり、抽象的な作品を描いたりしている人もいる訳だから、色々なテーマがあってもいい。常設展の中もテーマで区切ったりして何か色々な方法で展開できるような、常設展の中の企画展みたいなコーナーとか、現状から修正して出来るような展示が必要かもしれない。それでいずれにしても全体性と各論とをもう一度洗いなおす必要があると思う。100点満点の答案を実際に反映させることはまず難しい。

事務局（稲葉）：そうですね、そこはもう十分自覚しております。

委員長：そうしたら全て今までの活動実績の中から修正していく。他館の実績も参考に自分なりに直していく形で修正していく。リニューアルは、いっそ建て直すならいいが、そうではないときには制約が掛かる。

これからの博物館は、参加する人だけじゃなくて運営の協力もしてくれる、ミュージアムフレンド制というか、若い人達を取り込んで、そこには学校や地域の提携があり、組織的なものを作っていくと。

この委員の中にも色々な立場の人がいる。そういう人たちの智慧と協力を仰ぎながら作っていくと計画倒れになる危険があるし、背負い込むものが多くなりすぎて、そのうちに出来ませんといわざるを得なくなる。

だから博物館の中で、今みたいにもう一度そのところをやって支援体制とか協力体制とか全体的なテーマの方向性とか各論としてはこういうことを今やったほうがいいのかのことで、もう一度検討していただいたほうが良いと思う。いきなり何したらいい、かにしたらいいとはこの場では言えない。方向性は、今ここで考えている中でいいと思うけれど、もっと絞り込んでそれから問題点を列記して…。先生方どうですか。その辺のご意見は、ありませんか。

廣部委員：学校は今、忙しくて教職員に非常に時間のゆとりが無い。今年、学校に復帰する前に博物館に授業の協力をお願いしましたが、ほぼできない状況です。

今、委員長が博物館と学校との提携とおっしゃった件ですが、去年まで教育委員会に勤務していた関係で、博物館の取り組みには、委員長がおっしゃるように目覚ましいものがあり、ここ数年で金のすずを通じて今まで知らなかったことが随分知り得た実感が有りますので是非、学校の社会科の専門の教員に集まってもらい、時代やテーマで2時間とか3時間の指導パッケージみたいなものを市全体の小学校で学ぶ、ということがおそらく可能だろうと思うし、学校も、多分助かるのではないかと思います。そういったことも、委員長の「体験」に入るのかも知れませんが、提携の一つの方法だろうと思います。

委員長：結局マニュアルを作って勉強して、教師が生徒に教えるまでには時間かかると思う。まず先生が勉強してカリキュラムの中に落とし込んでもらわないと、学校が博物館に来ることが続かない。博物館を起点にして歴史を誇りに思うような何かにあたる為には今先生がおっしゃられたような形でマニュアル化して、先生方が教育の中の位置づけをはっきりさせないと続かない。そのために平成33年から実施するとしたら、多分間に合わない。そういうことは一期、二期、三期くらいに分けてやっていけば良いと思う。それだって学校によって受け止め方は異なるだろうから色々あると思う。

それでも全体的には生徒が地域の歴史に興味を持てるように、来館してもらう形であれ、出前授業として行くであれ、学校との提携、それから個人的な趣味の人達、倶楽部の人達、老人会の人達、色々な人達を取り入れてカラメテ、参加型のシステムを考えながら各論と全体案を絡めて持っていくと、小さい花火

は上げられても大きい花火は上げられない。

私等も偉そうなことは言えない。もう失敗の連続。学校の先生は大変だと思う。文科省のカリキュラムだって、生きているから変わっていく。学校教育と社会教育は別で、両方合わせて生涯学習に持っていこうなんて最近誰も言わなくなった。一時は両輪揃って初めて教育だといっていたのに。

私の社教主事時代は、学校の先生で次の校長のポストを待つために座っている感じの人が結構いた。学芸員・司書・社教主事というのは、その世界でやっていくんだという人たちが色々な事業を展開するなかで学校と提携して、生涯学習、人間教育を進めるべきなのに、出世待ちの人が貴重な一つの席を占領する形になったように見えたことがあった。

そうならないためには、改革とかソフトの面も一緒に並行していかないと、しかも1回やったら終わりじゃなく、また10年したら変えようとかね、メンテナンスがきちっと並行して走っていないと、ハードの面でもソフトの面でもその中で交換していくような形になっていないと上手くいかない。

だからもう一回その辺を含めて考えて。私が失敗してきたことは色々言えるけれど、正案は解からない。各館の特色があり、歴史があり、そこに各館の職員の実力など色々なことが絡み合っていて出てきてるんだよね。

だからその辺は大学とも協力してもらえるしね、県立館くらいなら協力してくれるけど国の研究機関とか大学になると結局高くなってからあまり足元を見られちゃうというか馬鹿にされちゃうような程度じゃ駄目なんだよね。その辺をきっちり、私等はそういうことは解かってるけど、ここのポジションを今やってるんです。だから教えてくださいとかね、一緒にやりましょうかと持っていくとなかなか上手くいかないような気がするな。ごめん、いいたいことって。

事務局（稲葉）：今回お見せした写真は大規模館ばかりで、我々は小規模館です。本来は小規模館の事例を色々撮ってきたのですが、そこまで手が回りませんでした。是非、小規模館で参考になりそうな展示等がございましたらご教示いただくと我々も実際に見て勉強させていただきたいと思っております。

スマートフォンという電子媒体の活用は最初の初期投資はあるでしょうが、1回構築あとの更新の方法など不勉強な面は残っております。

それと市の基本計画に載せて計画的に予算配分を取っていかないと、突然予算を増加してくださいといっても、無理な話ですのでその辺も含めて色々やっていきたいと思えます。

それから、公共施設の再配置計画が各市で行われておりまして、その中で将来的には博物館もリニューアルするよりは新しい博物館建てたほうが多分、長い目で見れば安上がりになると思うのでそういう協議の場も多分持たれると思っております。再配置計画も含めて将来を見据えて、今回出来なくても次の機会に繋がるよう色々博物館の中で蓄積できるようなご意見等をお願いいたします。

委員長：長期・中期・短期計画があって、ハード面やソフト面、職員の問題、予算の問題、皆その中に絡んでくる。それを常に考えて短期的・中期的・全体的・今は起きていないけれども将来的には起きるだろうということなどそれぞれの見通しが無くては、その都度の短期計画だけでは行き詰る。だから常に、風呂敷広げてでも縦の線と横の線を検討しながらの追加修正が必要になる。

それから、この館は県立時代、元々小規模館とした設置構想でした。これは、県全体の博物館ネットワークのなかで総合博物館して機能する構想だから、地域ごとには各専門館でいいというものでした。その館で今から総合を目指すには難しい面がある。ここで計画するには長期、中期、短期を見つつハードもソフトも全部、予算もすべて絡めて考えていかないと、上手くいかないだろう。

それと私の現役時代は入館者が2万人超えれば全国で上位20から25%のランクに入っていたと思う。今だって、3万人くらい入館者が入れれば同規模館の中では全国的にも上位に位置づけられるだろう。同規模館と比較していくのも一つの戦略だろう。

博物館の周りに戦争遺跡があり、自然をやろうと思えば出来るし、色々な取り組みが考えられるなら、金のすずは非常に恵まれたロケーションだと思います。

その辺も、もう少し知りたいところですが、こういう説明を受けて、どうですかと言われても具体的にすぐ言えない。先生方いかがでしょうか。

山田委員：見せていただいた技術的な面は館の努力で対応できると思います。もし遺物を単次元計測してバーチャルに見せる工夫をするのであれば、やはり一番の目玉は金鈴塚の遺物でしょう。

アンケートを見ると木更津市内の人が約半数で、うち3割が小学生ということは学校で地域学習のケースが一番多いのでしょう。利用の形態と博物館のあり方は、ある程度対応していないといけないとは思いますが、木更津の金のすずの中で一番見せたいものがあるわけで、核になるものをベースに作っていかないとはいけません。

金鈴塚は勿論あるし、全体的に展示もいいというのであれば、今のように金鈴塚があって、通史という展示をベースにしながら、もう少し金鈴塚に焦点を当てた形で物語性をもって提供するなどになろうかと思っています。

そういう点では群馬県立かみつけの里博物館は5世紀に特化した展示です。それを目当てに各地からいらっしゃる訳で、総合博物館のある一面どこへ行っても同じ展示というより、やはり金のすずには何をしに行くのかといえ、一番は金鈴塚を見にくるというのが多いのだらうと思います。一方で市外からだけにすると地元のニーズには応えられなくなるので、その辺の按配を勘案していく方がいい。というのは木更津市の教育の中でどういうふうに博物館を位置付けるかということと、職員には色々な専門があるので、金鈴塚以外も活かす展示スペースを残さなくてはならないということもあるだろう。さっき紹介していた古写真を集

めるのが、木更津の場合には金のすずしかないのであれば、地元の写真が散逸する前に集めておくことが大事だし、それを企画して市民と一緒にやっていくのも一つの方向性だろう。学芸で現場を担当している人が、博物館という物をどういうふうなメディアとして、誰に何を示したいのかというのがもう少し解かってくれば、こちらとしても意見がいい易い。

委員長：はじめから作る基本構想みたいな設計図がないと大変だろう。それで今先生がおっしゃった話は、過去に県立時代から何便も試行錯誤を繰り返してきている。

だからいきなり100点満点はまず難しい。予算も厳しいし、職員数もあるし、もっと恵まれた時代でも出来ていない。あれもこれもと手を広げるのは危険だから、先生がおっしゃったようにこの際、何が有るのだ、何が売いかということをもう一度再編成してみるのもチャンスだと思います。

山田委員：平成25年度のアンケートを見ると県立の頃より数段良くなったと有って、上総博の時のバランスよく営業していた頃よりは、少し色が付いたことが評価されたということではないだろうか。先ほどのかみつけの里博物館も開館20年位だと思いますので、良いところのほかに今どういう問題を抱えているかも調査しておく価値があるかも知れない。特化した展示を採用した場合に背負うリスクという物があるなら、事前に調査をして回避できるものなら回避するし、回避できないなら判断がせまられることになるだろうから、もう少し方向性が見えれば情報収集等のお手伝いで協力できることもあるだろう。

委員長：県立時代も、最初は評判が良かったけれど、段々低くなってしまった感がある。資料はたくさんあるし、写真だって何だって収集していた。だからそれを整理して使えるようにして、常設展の何かテーマを設けて何かの今昔みたいな写真展をやるとかね、そういうような形だって出来るし、色々なことを整理するだけでも色々なことが出来てくる。

もう一度山田先生が言ったようにその辺を見直してみたらいかがか。それからでないと、自分等が出来なかったこと人に言っては申し訳ない。

昔は県博協、関博協、日博協それぞれが見学会・事業・研修を精力的に実施していました。だけどそれらが継承されていないように感じられる。そういうふうにならないためには、もう1回再編成してみる必要がある気がする。

現在までに博物館の世界で考えられることは色々なセクションでたくさんやっている。だからそういうことをもう一回洗い直す、もう一回立て直せば良い方向性が出るだろうし、そのためには、自分の足元をもう一回見るということだと思う。自分等の失敗を棚にあげて、ごめんなさい、そういうことです。

そのほかに何かありますか。もう結論が出たみたいなので、そういう形でお願います。検討はずっと続いていくものだから随時やっていきましょう。

委員長：それでは次にその他の項目に入らせていただきます。

「木更津市郷土博物館金のすずの設置および管理の条例施行規則の一部を改

正する規則の制定について」、事務局に説明を求めます。

山口参事：私からは「木更津市郷土博物館金のすずの設置および管理の条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」ご報告申し上げます。

9月議会で、木更津市郷土博物館金のすずの設置および管理に関する条例の改正が議決されました。それに伴って施行規則を改正するもので、10月18日開催の教育委員会議会で可決されました。レジメに新旧対照表がございますけれども、主な改正点といたしましては、条例で撮影、模写等の特別利用料金を撤廃するという事に伴いまして、諸手続き及び各書式を整備するものであります。

加えまして第9条3項に教育委員会があらかじめ許可した場合はその撮影等の申し込みを省略できることにしております。これによって博物館の展示品のうち、寄託を受けているものや、著作権等に触れるものを除いて、あらかじめ撮影可としてご案内することで来館者の利便性の向上を図ると共に、来館者の方が今はやりのSNSなどで博物館の写真を情報発信することでPRを期待するものです。なお、条例、規則については来年度4月から適用ということでございますので、その準備については博物館の方で進めていただくことになっております。雑駁ですが以上です。

委員長：これは事務の効率化を図ったものですね。何か質問はありますか。時代の変化にあわせて改正していくことは大事なことだと思います。如何でしょうか？ご質問がないようでしたら、これは了承することにいたします。それでは他に何か、事務局いかがですか。

事務局（稲葉）：平成29年度夏休み期間無料開館の実施結果について報告させていただきます。期間中の入館者は今年度1,718名、この期間としては開館以来3番目に多い入館者数となりました。昨年の934名からすると約二倍になります。通常営業の無料開館を実施した成果があったものと考えております。また、11月3、4、5日の3日間も無料開館をいたしました。今までも文化の日は基本無料開館にしておりましたが、やはり多くの入館者がございました。今後も無料開館を実施する方向で、普段利用されない方たちにも博物館を知ってもらうという取り組みをしていきたいと思っております。以上でございます。

委員長：一時は皆有料にという声が高かった。千葉県のネットワーク構想というのは博物館法で無料開館すると謳っていることを最後まで遵守していた。けれども、結局今は有料になっている。今また無料化になってきたのはいい方向だと思う。

はい、解かりました。それではほかにございませぬようですので、今日の質疑は終わりにしたいと思います。事務局の方よろしく申し上げます。

事務局（松本）：本日、委員の皆様には、ご多忙のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも当館の博物館運営業務につきまして、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

これをもちまして、平成29年度第2回木更津市郷土博物館 金のすず協議会

を閉会いたします。

(終了)